

NCHソフトウェア

Express Burn

ディスク書き込みソフト

このマニュアルは以下の製品用に作成されています：

Express Burn ディスク書き込みソフト バージョン12.xx

テクニカル サポート

Express Burn

ディスク書き込みソフト操作中に問題が起こった場合は、サポートへ連絡する前に、該当するトピックをお読みください。このユーザーガイドに問題が見つからない場合は、www.nch.com.au/burn/jp/support.htmlにて、最新のExpress Burn ディスク書き込みソフト

オンラインテクニカルサポートをご覧ください。それでも問題が解決されない場合は、そのページに記載されているテクニカルサポートまで連絡してください。

ソフトウェアの提案

Express Burn

ディスク書き込みソフトの改善策または、必要な関連するソフトウェアへの提案がございましたら、www.nch.com.au の提案ページに書き込んでください。当社のソフトウェアプロジェクトの多くは、ユーザーからの提案によって行われています。お客様の提案が採用された場合、アップグレード版を無料で提供いたします。

Express Burn

ディスク書き込みソフト

目次

はじめに.....	3
基本的な使い方.....	4
ショートカットキー一覧.....	5
Express Burn プラス版の購入と登録.....	7
ディスクラベルを設定する.....	8
NCH ソフトウェアパッケージ.....	9
ソフトウェアライセンス規約.....	10
音声タブ	
音声CDについて.....	12
MP3 CD/DVDの概要.....	13
音声/音楽CDの作り方.....	15
MP3 CDの作り方.....	18
MP3 DVDの作り方.....	21
データタブ	
データCDについて.....	24
データディスクの作り方.....	25
動画タブ	
データDVD/ブルーレイについて (Express Burn プラス版のみ)	27
動画DVDについて (Express Burn プラス版のみ)	28
動画ブルーレイについて (Express Burn プラス版のみ)	29
動画DVDの作り方.....	30
動画ブルーレイディスクの作り方.....	33
VideoPadを使って動画を編集.....	36
ISOタブ	
ISOイメージを作成.....	37
ISOを書き込む.....	38
ISOイメージ (Express Burn プラス版のみ)	39
ディスクを書き込む	
書き込み設定.....	40
ディスクをコピー.....	42
書き込みエラー.....	43
トラブルシューティング.....	44
プロジェクトファイル.....	46

デコーダ設定.....	47
詳細設定.....	48
コマンドラインオプション.....	49
各画面について	
動画をプレビュー.....	51
カラーピッカーダイアログ.....	52
音声CDを書き込む.....	53
使用するドライブを選択する.....	55
ストリームを選択.....	56
ディスクメニュー作成機能.....	57
テンプレートを選択する.....	58
新しい書き込みディスクを選択する.....	59
オプション.....	60
動画チャプターを管理する.....	61
チャプターを変更する.....	62
削除する.....	63
ディスクボリュームのラベルを編集.....	64
CD-TEXT詳細.....	65

その他のリンク

エンコード設定 <http://www.nch.com.au/kb/jp/10080.html>

制限つきユーザーにCDリッピング/ディスクの書き込みを可能にする
<http://www.nch.com.au/kb/jp/10008.html>

はじめに

Express Burnは音声（音声CD/MP3 CD/MP3 DVD）、動画（DVD/ブルーレイ）、データ（CD、DVD、ブルーレイ）など様々なタイプのディスクの書き込みやコピーを超高速で行います。**主な機能**

- 様々な音声を音声CDやMP3 CDに高速で書き込みます。
- 音声ファイルは音声CDおよびMP3 CDに適した形式に自動変換されます。
- ASPIおよびSPTIの書き込みに対応しており全てのバージョンのWindowsで書き込みが可能です。
- 音声ファイルは書き込み前にプレビューすることができます。
- ファイルはディスクのタイプを指定してドラッグアンドドロップ形式で読み込むことができます。
- 音声ファイルはWavePadを使って編集することができます。
- 動画ファイルはVideoPadを使って編集することができます。
- Joliet形式のデータCD、DVDおよびブルーレイのISO形式書き込みに完全対応。
- UDFバージョン1.02形式のデータCD、DVDおよびブルーレイのISO形式書き込みに完全対応。
- ファイルの挿入や書き込みは全てコマンドラインで対応できます。
- デスクトップアイコン上にファイルをドラッグするだけで自動的にファイルを挿入できます。
- 音声CDはマルチセッションでの書き込みが可能、トラックを後から挿入できます。
- 音声CDにアルバム名などの情報を入力できます(CD-TEXT)。
- 簡単なブルーレイおよびDVDムービーを作成できます。
- 音声やデータディスクをコピーできます。

動作環境

- Windows XP/Vista/7/8/10
- CD、DVD、ブルーレイ書き込みドライブ

Windows XPでExpress

Burnをお使いいただく場合は、コンピュータに管理者としてログインする必要がありますのでご注意ください。

Express

Burnのほかにも便利なソフトウェアを全て無料でダウンロードいただけます。詳しくは以下のページをご覧ください：www.nch.com.au/software/jp

。音声関連ソフトを含む様々なソフトウェアを全て無料でダウンロードいただけます。

基本的な使い方

書き込みを行うディスクのタイプを選びます。

CDプレーヤーまたその他のホームシアターシステムで再生可能な音声/音楽CDを作成できる音声の再生に対応しているデバイス用にMP3 CD/DVDを作成しますか？

保存またはバックアップ用にデータディスク (CD, DVD,

DVDプレーヤー)を作成再生する動画DVDを作成しますか？

ブルーレイプレーヤーで再生する動画ブルーレイを作成しますか？

ショートカットキー一覧

以下のキーを使ってExpress Burnの様々な機能にアクセスすることができます。

ファイルを挿入する	Ctrl+Y
フォルダを挿入する	Ctrl+U
ファイルを削除する	Delete
全てのファイルを削除する	Ctrl+Delete
WavePadで編集	Ctrl+E
VideoPadで編集	Shift+Ctrl+E
ファイルを再生する	F9
ファイルを停止する	F10
ディスクを書き込む	F3
プロジェクトを開く	Ctrl+O
プロジェクトを保存	Ctrl+S
プロジェクトに名前を付けて保存	Shift+Ctrl+S
プログラムを終了する	Alt+F4
マニュアル	F1
音声CDコンピレーションを作成する	Ctrl+K
MP3 CDコンピレーションを作成する	Ctrl+J
MP3 DVDコンピレーションを作成する	Ctrl+M
データCDコンピレーションを作成する	Ctrl+D
データDVDコンピレーションを作成する	Ctrl+T
動画DVDコンピレーションを作成する	Ctrl+I
データブルーレイコンピレーションを作成する	Ctrl+B
動画ブルーレイのコンピレーションを作成する	Ctrl+H
ディスクラベルまたはファイル名を変更する	F2
新規CD/DVD	Ctrl+N
ディスクをコピー	Ctrl+P
新規フォルダを作成する	Ctrl+L
書き込み済みの内容を消去する	Ctrl+W
書き込みドライブを選択する	Ctrl+R
イメージファイルに書き込む	Ctrl+G
チャプタを管理する(動画DVDと動画ブルーレイディスクのみ)	Alt+M
現在の動画のチャプタを消去する(動画DVDおよび動画ブルーレイディスクのみ)	Ctrl+Shift+Delete
チャプタをインポートする(動画DVDと動画ブルーレイディスクのみ)	Ctrl+Shift+I
チャプタ画面のコントロール機能	
動画の冒頭へ戻る	Shift+Home
動画の末尾へ移動	Shift+End
チャプタを挿入	Ctrl+A
チャプタを変更する	Ctrl+E
チャプタを消去	Deleteキー
チャプタをインポート	Ctrl+M
チャプタをエクスポート	Ctrl+X
全チャプタを消去	Ctrl+C

動画を再生
動画の再生を停止

F9
F10

Express Burnプラス版の購入と登録

有料版Express

Burnをお使いいただくにはライセンスの購入およびソフトウェアの登録が必要です。最新の価格やアップグレードに関する情報は弊社サイトからご覧いただけます。

ソフトウェアライセンスを購入いただくと、「請求書/領収書」と「ソフトウェア購入シリアル番号」の2通のメールがお手元に届きます。

ソフトウェアライセンスの有効化は、当社Webサイトの「ソフトウェアを有効化する」ページ（www.nch.com.au/activate/jp）から行います。ライセンス番号とその他の必要項目を記入し利用規約に同意して「ライセンスを有効化する」ボタンをクリックすると、画面に登録コードが表示され、電子メールでも同じ情報をお届けします。登録コードはソフトの再インストール時などに必要になりますので、大切に保管しておいてください。

Express

Burnに登録コードを入力します。ファイルメニューから「ソフトウェアを登録する」を選択し、登録コードを正しく入力後「登録」ボタンを押して登録を完了します。

コードが承認されない場合…

1. 登録画面に入力した登録コードが正確に入力されていることを確認してください（大文字や小文字、スペースなどが細かく判別されますのでご注意ください）。入力エラーを防ぐために、コードはコピー貼り付けすることをお勧めします。

2. 旧バージョンの Express

Burn用にご購入いただいたライセンスは最新版にはお使いいただけない可能性があります。この場合、以下のサイトからソフトウェアライセンスのアップグレードをご購入ください：www.nch.com.au/upgrade/jp/index.html。

3. Express

Burnの再インストールを行う必要（例：ハードドライブの交換後など）があり、再インストール前はライセンス登録コードが現在お使いのバージョンのソフトにお使いいただけただけの場合、登録コードをリセットする必要がある可能性があります。以下のNCH登録サポートまでご連絡ください：

www.nch.com.au/support/jp/regcontact.html）までご連絡ください。ご連絡いただく際は登録コードを明記ください。

ディスクラベルを設定する

このダイアログを使い、書き込みを行うディスクのラベルを設定します。

NCH ソフトウェアパッケージ

この画面から弊社が開発しているその他の便利なソフトを簡単に探すことができます。

音声や動画などカテゴリ別の一覧から必要なソフトをお選びください。必要なソフトが見つかったらボタンをクリックするとお試し版がインストールされ、無料でソフトをお試しいただけます。既にインストール済みのソフトのボタンは「実行」ボタンになっており、このボタンを押すとソフトが起動します。

カテゴリ別一覧の下の欄にはソフトの機能の一覧があります。例えば「動画を録画する」という機能をクリックすると、動画の録画用ソフトがインストールされます。

検索

検索エリアに必要なソフトに関するキーワードを入力して「検索」ボタンをクリックすると、キーワードにマッチした弊社サイトの検索結果が表示されます。

その他のNCHソフトウェア製品を見る

弊社の全製品カタログが表示され更に多くのソフトをお探しいただけます。

ニュースレターを購読

新製品のリリースやソフトのアップデートなどの最新情報をいち早くお届けするニュースレターを購読いただけます。購読の停止はいつでも簡単に行っていただけます。

最新の特別購入価格を参照する

各製品の最新の割引価格をご覧ください。

ソフトウェアライセンス規約

弊社はユーザーの皆様のお役に立つソフトウェアの提供を目的と致しております。弊社製品は利用規約に同意いただくことでお使いいただけます。

この利用規約は当社の責任を制限し仲裁合意および裁判管轄合意に準拠します。以下の条項をお読みいただきお客様の権利についてご理解ください。本規約は全て英文を正本としますので予めご了承ください。

1.

このソフトウェアおよびソフトウェアと共に配布される音声およびビジュアル作品の著作権はNCHソフトウェアおよび製品情報画面に記載されている他の著作権者に帰属します。全ての権利は著作権者が保有します。このソフトウェアおよびこのソフトウェアに同梱またはこのソフトウェアによりオンデマンドでインストールされるソフトウェア（ショートカットやスタートメニューフォルダを含む）のインストールは以下の規約に則りライセンスされます。こうした著作権はユーザーが作成した作品には適用されません。

2.

このソフトウェアをインストール、使用、または配布することで、ユーザーはユーザー自身およびユーザーの雇用主または当事者に代わってこの規約に同意します。規約に同意しない場合はソフトウェアの使用、複製、送信、配布およびインストールを行うことができません。返金が必要な場合はご購入後14日以内に商品をご購入いただいた場所にご返品ください。

3.

このソフトウェアおよびソフトウェアに付随するファイル、データ、その他素材は全て「現状のまま」で提供され、法により定められていない限りは、明示または黙示を問わずいかなる保証も行われません。重大な影響を与える件にこのソフトウェアを使用する場合は、使用前に十分なテストを行い、使用に伴うリスクは全てユーザーが負うものとします。

4. NCHソフトウェアはこのソフトウェアの使用により発生したいかなる損害

（特別損害、付随的損害、派生的損害を含む）に対しても責任を負わず、当社製品のご購入時にお支払いいただいた金額に対する返金以外への対応は一切いたしかねます

。

5.

このソフトウェアの誤使用が人体に危害を加える可能性がある場合、また人命にかかわる場合はこのソフトウェアを使用しないでください。コンピュータを定期的にバックアップしない場合、またはコンピュータにウィルス対策ソフトやファイアウォールがインストールされていない場合、重要なデータが暗号化されずにコンピュータに保存されている場合はこのソフトウェアを使用しないでください。こうした方法での使用によるいかなるクレームに対してもNCHソフトウェアを免責することに同意する必要があります。

6.

何ら手を加えられていない状態のソフトウェアのインストールを複製および配布することはできませんが、弊社ソフトウェアの登録コードの配布は、いかなる状況においても弊社の書面による許可なく行うことはできません。許可されていないコードの使用が行われた場合は、コードが使用された全てのロケーションに対して製品の全額をお支払いいただきます。

7. ソフトウェアによって限られた状況下でのみ自動的に匿名で収集された使用統計データの使用は当社のプライバシー規約に従って行われます。

8. 準拠法と管轄ユーザーがアメリカ合衆国居住者である場合はアメリカ法人のNCH Software, Inc.が当事者となり、この規約に関して紛争が生じた場合、この利用契約はコロラド州の法律を準拠法とし、同州の裁判所を管轄とします。ユーザーがアメリカ合衆国居住者以外である場合はオーストラリア法人のNCH Software Pty Ltd.が当事者となり、この規約に関して紛争が生じた場合、オーストラリア首都特別区の法律を準拠法とし、同区の裁判所を管轄とします。上記で定められた裁判所は、当事者間の紛争に関し、いかなる性質の紛争であっても、継続的かつ専属的な管轄権を有します。

9. アメリカ合衆国居住者のみ：仲裁合意およびクラスアクション（集団訴訟）の権利放棄：ユーザーがアメリカ合衆国に居住する場合、当事者間の全てのクレームおよび紛争は英語版の規約（以下のページよりご覧ください：<https://www.nch.com.au/general/legal.html>）を基に仲裁を行うものとし、この規約をお読みいただきご理解ください。お客様の権利について書かれています。この規約ではユーザーおよびNCHソフトウェアのいずれも、個人の権利能力のみでの提訴が可能であり、原告やクラスメンバーなどいかなるクラスアクションや集団訴訟などによる提訴もできないものとしています。

音声タブ - 音声CDについて

音声CDのサイズ指定

音声CDの長さは、稀に90分というものもありますが、通常は74分または80分です。この長さはトラックの合計再生時間を表します。また、音声CDには99トラックまでという上限があります。

CD-Rは制限時間を越えて書き込みが可能な、いわゆる「オーバークラス」が可能です。オーバークラスの量はCD-Rのブランドにより異なりますが、一般的には1分以内のオーバークラスが可能です。CD-RWはオーバークラスを行うとディスクが使えなくなる可能性があるためお勧めいたしません。

トラック間のポーズ

各トラックの間には2秒のポーズが入るよう初期設定されています。ポーズの長さはメインの書き込みダイアログで0秒から設定変更できます。メイン画面に表示される合計再生時間はポーズを含んだ時間ですが、各曲の再生時間はポーズを含みませんのでご注意ください。

音声CDの種類

CD-R

：最も一般的なタイプのディスクで、書き込めるのは1度だけです。一度トラックを書き込むと、その後の変更はできません。

CD-RW

：このタイプのディスクは書き込み後内容を消去することが可能です。再書き込みの回数には上限がありますが、数千回という単位ですので、CDを完成させる前に何度もテスト書き込みをすることが可能です。CD-RWの再生には通常より多くのレーザーが必要なため、安価なCDプレーヤーでは再生できないことがありますのでご注意ください。

音声データの書き込みに最適な、音声専用のCD-RやCD-RWというものもあります。こうしたCDは音楽データ以外にも使えますが、音楽CDに使用すると音質が良くなるがあります。

CD速度

CD書き込みドライブ、またCD自体には速さの基準があります（例：8倍速）

これは、こうした機器の第1世代と比べてどれだけ速く書き込めるかということの意味しています。速度は書き込みの速度であり、再生の速度ではありません。一般のCDプレーヤーは1倍速での再生です。

取り扱い注意点

CDの再生面（ラベルが付いていない側）に触れないで下さい。指紋などが付着することで読み取りに問題が生じる場合があります。

再生面を直射日光に当てないで下さい。長時間直射日光に当たるとデータが消去される可能性があります。

音声タブ - MP3 CD/DVDの概要

MP3 CD/DVDと音声CDの比較

MP3

CD/DVDは音声トラックを書き込む音声CDとは違い、.mp3（圧縮音声）ファイルを書き込めるデータディスクです。一般的な音声CDが74分または80分であるのに対し、MP3 CDは非常に長時間の録音が可能です。

MP3

CD/DVDは.mp3ファイルの再生が可能なデバイスでのみ再生できます。旧式のCD/DVDプレーヤーなどではMP3ディスクに対応していない場合があります。またMP3 CDには対応していてもMP3 DVDには対応していないという場合もありますのでご注意ください。お使いの再生デバイスが対応しているフォーマットについては、製造メーカー発行の仕様書等をご覧ください。

MP3 CD/DVDのサイズ指定

MP3

CDには約650MBから700MBの音声ファイルを記録することができます（サイズはディスクのタイプにより異なります）が、MP3 DVDには4GB以上の記録が可能です。例えば.mp3形式の音楽は平均して2MBから8MB程度ですので、MP3ファイルの圧縮形式によっては100曲以上の音楽をMP3 CDに書き込むことが出来ると言う計算になります。

規定の量を超えたデータを保存（オーバーバーン）することも可能ですが、通常10または20メガバイトが上限です。

MP3設定

これらの設定はMP3

CD/DVDに挿入するためにファイルをMP3に変換する際のエンコードに影響します。例えばWAVファイルや動画ファイルを書き込む場合、ExpressBurnはそれぞれのファイルの音声をエンコードしてMP3ファイルに変換しディスクに書き込みます。これらの設定はエンコード処理に影響します。

重要：これらの設定は MP3ファイルには影響しません。MP3ファイルは既存のエンコードのまま何も変更されません。

重要：これらの設定は **ファイルを挿入する際のみ提供され**、既に挿入済みのファイルには影響ありません。

注意事項：

MP3

CD/DVDには公式規格がありません。そのため、プレーヤーごとに再生方法が異なることから、互換性に問題が生じたり、ディスクの再生ができなかったりという問題が発生する場合があります。こうした問題の発生を防ぐ方法として以下が考えられます：

- .mp3のファイル名を40文字以内に抑える
- 特殊な文字（例：UNICODE）を.mp3のファイル名に使わない

CDの種類

CD-R

：最も一般的なタイプのディスクで、書き込めるのは1度だけです。一度トラックを書き込むと、その後の変更はできません。

CD-RW

：このタイプのディスクは書き込み後内容を消去することが可能です。再書き込みの回数には上限がありますが、数千回という単位ですので、CDを完成させる前に何度もテスト書き込みをすることが可能です。CD-RWの再生には通常より多くのレーザーが必要なため、安価なCDプレーヤーでは再生できないことがありますのでご注意ください。

CD速度

CD書き込みドライブ、またCD自体には速さの基準があります（例：8倍速）これは、こうした機器の第1世代と比べてどれだけ速く書き込めるかということの意味しています。速度は書き込みの速度であり、再生の速度ではありません。一般のCDプレーヤーは1倍速での再生です。

取り扱い注意点

CDの再生面（ラベルが付いていない側）に触れないで下さい。指紋などが付着することで読み取りに問題が生じる場合があります。

再生面を直射日光に当てないで下さい。長時間直射日光に当たるとデータが消去される可能性があります。

音声タブ - 音声/音楽CDの作り方

音声CD

音声CDの作り方

音声/音楽CDの作成は以下のステップで行います：

1. 作成するディスクとして「音声CD」を選択します
2. 一覧に音声/音楽ファイルを挿入します
3. 必要に応じて音声/音楽ファイルを編集します
4. 音量を正規化します（任意）
5. ファイルを希望の順序に並べます
6. CD_TEXTの情報を確認します
7. CDを書き込みます

各ステップの詳細は以下のとおりです。

コンプレッションを選択する

CDの種類はツールバー（メインメニュー上部でアイコンが並んでいる部分）の「音声」タブで「音声CD」ボタンを選ぶか、またはキーボードのCtrlとUキーを押すことで選ぶことができます。また、ツールバーの新規ディスクボタンをクリックするか、「現在のディスク」メニューからディスクタイプへ行くことで音声CDを選ぶことができます。

データCD（またはDVD、ブルーレイ）モードで挿入されたファイルは、音声CDモードに行くと音声/音楽ファイル以外のファイルはコンプレッションから外され、データモードに戻した後もファイルはコンプレッションに戻りませんのでご注意ください。元のファイルはコンピュータ上に残っていますが、Express Burnのファイル一覧からは外されます。

ファイルの挿入と削除

音声ファイルをCDに挿入するには、「ファイルを挿入」または「フォルダを挿入」をクリックするか、もしくは「ファイル」メニューから「ファイルを挿入」を選択してください。閲覧画面が開きますので、ここで以下の音声ファイル形式を選択してください：

.WAV .MP3 .OGG .WMA .AIF .AIFF .AU .RA .RAM
.FLAC .GSM .AAC .VOX .RAW .SND .DSS .DCT

これらのファイル形式のいくつかは選択したファイル形式の解読用に自動的にプラグインをダウンロードします。インターネットに接続できる環境に無い場合、別途当社のウェブサイトからダウンロードして当該コンピュータにダウンロードすることも可能です。また、解読が必要なファイル形式がいくつか挿入され、コンピュータによってはこの作業に数分かかる場合があります。

その他のファイル形式に対応するにはDirectShowコーデックのインストールが必要です。Windowsに事前インストールされている場合がありますので、ファイルを読み込んでみてください。特定のファイルを見るために「全てのファイル」を選択する必要のある場合があります。

各音声トラックの最短時間は4秒です。4秒以下のファイルには無音部分が挿入され4秒のファイルになります。また、トラック間には必ず切れ目があるため、メディアプレーヤーによっては各トラックの長さを実際より2秒長く表示する場合があります。そのため、無音部分を挿入して4秒に伸ばしたファイルの長さは6秒と表示される場合があります。ディスクの書き込み時にトラック間のポーズの秒数を指定した場合は、指定した秒数が優先されます。詳しくは書き込み設定ダイアログをご覧ください。

上記以外のファイル形式は音声CDを作成する際Express Burnに認識されません。その他の形式に対してはデータCDを作成する必要があります。

挿入したファイルを削除する場合は、削除したいファイルを選び「削除」ボタンをクリックするか、ファイルメニューから「削除」を選択してください。複数のファイルを一度に選択するには、Ctrlキーを押しながら選択するファイルを左クリックしてください。全てのファイルを削除するには、メニューから「全て削除」オプションを選択するか、キーボード上でCtrlキーとDeleteキーを押してください。

ドラッグアンドドロップ
ファイル一覧画面へドラッグアンドドロップする形で音声ファイルを一覧に挿入することも可能です。同様に、Express

Burnのデスクトップアイコンにファイルをドラッグアンドドロップすることで一覧にファイルを挿入することができます。アイコンにファイルをドロップするとExpress Burnが自動的に起動し、システムトレイにアイコンが現れます。

ファイルの再生

ファイルを再生するには、再生したいファイルを選びメインインターフェース下部の「再生」ボタンを押すか、「ファイル」メニューから「再生」を選択してください。複数のファイルを選択して再生ボタンを押した場合、最初に選択したファイルが再生されます。

音声/音楽ファイルを編集

ファイルメニューの編集オプションを使うと、WavePad音声編集ソフトを使って音声ファイルを編集することができます。CtrlとEキーを押すことでもアクセスできます。

音量を正規化する

Express

Burnに挿入した音声トラックの音量は正規化することができます。これは、曲中の音量が一番大きい部分を最大音量の一定の割合に合わせることで、各トラックの音量を調節するということです。初期設定の状態では音量は正規化されていません。

挿入したトラック全ての音量を正規化する場合は「現在のディスク」から「正規化レベル」へ行き希望のレベルを選択するか、正規化レベルのプルダウンリストを使って行います。Express Burnに挿入された全てのトラックが正規化されます。

ファイルの整理

ファイル一覧画面に表示されるファイルはCDに書き込まれたトラックと同じ順序で並びます。CD書き込み前の順序の変更は、トラックをドラッグし希望の位置にドロップする形で行います。

CD-TEXT情報を調整

CDプレーヤーに表示される曲名、アーティスト、アルバムの情報を入力することができます（CDプレーヤーによっては表示できないものもあります）。こうした情報はCD-TEXTデータと呼ばれディスク（リードイン）に保存されます。Express Burnに初期設定されている情報はCD-TEXTボタンをクリックすることで変更することができます。

情報をディスクに書き込むためにはディスクをセッションアットワンス録音で書き込む必要があります。この方法で書き込むには、まず書き込み設定ダイアログの「トラック間のポーズをカスタム化する」を選択します。CD-TEXTボタンをクリックすると、この書き込みオプションが選択されているかどうかを検出され、OKを押すことでこの機能を有効にするかどうかの確認を行います。

CDを書き込む

オーディオファイルを希望の順序に並べ終わった後、CD-R またはCD-RWに書き込みドライブに挿入します。挿入後、「CDを書き込む」ボタンをクリックするか、メニューから書き込みドライブ->CDを書き込むを選択、もしくはキーボードのF3を押してください。

次に 書き込み設定 のプロンプトが表示されます。どの設定を選択したらよいかわからない場合は初期設定を選択してください。選択すべき設定がわかっている場合は、該当する設定を選択してください。ここで決定した設定は今後の書き込みにも使用されます。

選択を終えると挿入されたCDの確認が行われ、何らかの問題があればメッセージが表示されます（例：ディスクの種類が正しくない、ディスクの容量が不足しているなど）。

書き込み速度はメディアおよびドライブによっても変わりますが、かなり長い時間（20分ほど）がかかる場合があります。書き込みの終わりに「リードイン/リードアウトの書き込み中」というプロセスがあり、ドライブやメディアにもよりますが、このプロセスに1～2分かかります。

音声タブ - MP3 CDの作り方

MP3 CD

MP3 CDの作り方

MP3 CDの作成は以下のステップで行います：

1. 音声タブからMP3 CDをディスクタイプとして選択します。
2. 「ファイルを挿入」または「フォルダを挿入」ボタンを押して、一覧に音声/音楽ファイルを挿入します。
3. 音声/音楽ファイルを編集する場合は、編集するファイルを選択し「WavePadで編集」ボタンをメイン画面のツールバーでクリックします。
4. 音声レベルの正規化を行う場合は、メイン画面の右上にある「正規化」プルダウンメニューを使って希望のレベルを選択します。
5. 一覧内でファイルをドラッグして、希望の順序のファイルの並び替えを行います。
6. 画面右下の「MP3 CDを書き込む」ボタンをクリックしてCDの書き込みを行います。

各ステップの詳細は以下のとおりです。

コンピレーションを選択する

ツールバー（メインメニュー上部でアイコンが並んでいる部分）を使ってMP3 CDをディスクタイプとして選択することができます。まず音声タブへ行き、MP3 CDボタンをクリックするか、CtrlとJをキーボードで押します。また、ツールバーの新規ディスクボタンをクリックするか、「現在のディスク」メニューからディスクタイプへ行くことでもMP3 CDを選ぶことができます。

データ

または動画モードでファイルを挿入すると、音声/音楽ファイル以外のファイルはコンピレーションから外されます。元のファイルはコンピュータ上に残っていますが、Express Burnのファイル一覧からは外されます。

ファイルの挿入と削除

音声ファイルをCDに挿入するには、「ファイルを挿入」または「フォルダを挿入」ボタンをクリックするか、ファイルメニューから「ファイルを挿入」または「フォルダを挿入」を選択してください。閲覧画面が開き、以下形式の音声ファイルの検索、表示および選択を行うことができます：

.AAC .ACT .AIF .AIFF .AMR .APE .AU .DCT
.DSS .DVF .DVS .FLAC .GSM .M4A .MSV .MOH
.MP3 .MPC .OGG .RA .RAM .RAW .SHN .SPX
.SND .VOC .VOX .WAV .WMA

対応する動画フォーマット（音声のみが書き込み用に変換されます）：

.3GP .ASF .AVI .FLV .MKV .MOD .MOV .MPEG .MPG .WMV

フォーマットによっては自動的に解読用のプラグインをダウンロードします。インターネットに接続できる環境に無い場合は、後から（または別のコンピュータに）弊社サイトよりダウンロードしてインストールすることも可能です。またフォーマットによっては一覧に挿入される際にデコードが必要な場合があり、処理速度が遅いコンピュータをお使いの場合はこの作業に1~2分かかる場合があります。

一覧に挿入される際は、MP3音声ファイル以外のファイルがMP3（CBR、192kbps）として再エンコードされます。再エンコードには1~2分かかる場合があります。

その他のファイル形式に対応するにはDirectShowコーデックのインストールが必要です。Windowsに事前インストールされている場合がありますので、ファイルを読み込んでみてください。特定のファイルを見るために「全てのファイル」を選択する必要がある場合があります。

MP3 CD作成時、上記以外のファイル形式はExpress Burnに認識されません。その他の形式に対してはデータCDを作成する必要があります。

挿入したファイルを削除する場合は、削除したいファイルを選び「削除」をクリックするか、削除キーを押します。複数のファイルを一度に選択するには、Ctrlキーを押しながら選択するファイルを左クリックしてください。全てのファイルを削除するには、メニューから「全て削除」オプションを選択するか、キーボード上でCtrlキーとDeleteキーを押してください。

ドラッグアンドドロップ
ファイル一覧画面へドラッグアンドドロップする形で音声ファイルを一覧に挿入することも可能です。同様に、Express Burnのデスクトップアイコンにファイルをドラッグアンドドロップすることで一覧にファイルを挿入することができます。アイコンにファイルをドロップするとExpress Burnが自動的に起動し、システムトレイにアイコンが現れます。

ファイルの再生
ファイルを再生するには、再生したいファイルを選びメインインターフェース下部の「再生」ボタンを押すか、「ファイル」メニューから「再生」を選択してください。複数のファイルを選択して再生ボタンを押した場合、最初に選択したファイルが再生されます。

音声/音楽ファイルを編集

ファイルメニューの編集オプションを使うと、WavePad音声編集ソフトを使って音声ファイルを編集することができます。CtrlとEをキーボードで押すことでもアクセスすることができます。

音量を正規化する

Express

Burnに挿入した音声トラックの音量は正規化することができます。これは、曲中の音量が一番大きい部分を最大音量の一定の割合に合わせることで、各トラックの音量を調節するということです。初期設定の状態では音量は正規化されていません。

トラックの音量レベルの正規化は、「正規化」プルダウンメニューを使うか、「現在のディスク」から「正規化レベル」を選択することで行います。ディスク書き込み時に全てのトラックが正規化されます。

ファイルの整理

ファイル一覧画面に表示されるファイルはCDに書き込まれたトラックと同じ順序で並びます。CD書き込み前の順序の変更は、トラックをドラッグし希望の位置にドロップする形で行います。

CDを書き込む

オーディをファイル希望の順序に並べ終わった後、CD-R

またはCD-RWに書き込みドライブに挿入します。挿入後、「CDを書き込む」ボタンをクリックするか、メニューから書き込みドライブ->CDを書き込むを選択、もしくはキーボードのF3を押してください。

次に 書き込み設定

のプロンプトが表示されます。どの設定を選択したらよいかわからない場合は初期設定を選択してください。選択すべき設定がわかっている場合は、該当する設定を選択してください。ここで決定した設定は今後の書き込みにも使用されます。

選択を終えると挿入されたCDの確認が行われ、何らかの問題があればメッセージが表示されます（例：ディスクの種類が正しくない、ディスクの容量が不足しているなど）。

書き込み速度はメディアおよびドライブによっても変わりますが、かなり長い時間（20分ほど）がかかる場合があります。書き込みの終わりに「リードイン/リードアウトの書き込み中」というプロセスがあり、ドライブやメディアにもよりますが、このプロセスに1～2分かかります。

音声タブ - MP3 DVDの作り方

MP3 DVDの作成は以下のステップで行います：

1. 作成するディスクとして「MP3 DVD」を選択します
2. 一覧に音声/音楽ファイルを挿入します
3. 必要に応じて音声/音楽ファイルを編集します
4. 音量を正規化します（任意）
5. ファイルを希望の順序に並べます
6. DVDを書き込みます

各ステップの詳細は以下のとおりです。

コンプレッションを選択

MP3

DVDの種類はツールバー（メインメニュー上部でアイコンが並んでいる部分）の「音声」タブから「MP3

DVD」ボタンを選ぶことで行います。もしくは、ツールバーで新規ディスクボタンを押すことでも選択することができます。

データ

または動画モードでファイルを挿入すると、音声/音楽ファイル以外のファイルはコンプレッションから外されます。元のファイルはコンピュータ上に残っていますが、Express Burnのファイル一覧からは外されます。

ファイルの挿入と削除

音声ファイルをDVDに挿入するには、「ファイルを挿入」または「フォルダを挿入」ボタンをクリックするか、ファイルメニューから「ファイルを挿入」または「フォルダを挿入」を選択してください。閲覧画面が開き、ここから以下のファイルタイプの音声ファイルを検索、表示または選択することができます：

.AAC .ACT .AIF .AIFF .AMR .APE .AU .DCT
.DSS .DVF .DVS .FLAC .GSM .M4A .MSV .MOH
.MP3 .MPC .OGG .RA .RAM .RAW .SHN .SPX
.SND .VOC .VOX .WAV .WMA

対応する動画フォーマット（音声のみが書き込み用に変換されます）：

.3GP .ASF .AVI .FLV .MKV .MOD .MOV .MPEG .MPG .WMV

これらのファイル形式のいくつかは選択したファイル形式の解読用に自動的にプラグインをダウンロードします。インターネットに接続できる環境に無い場合、別途当社のウェブサイトからダウンロードして当該コンピュータにダウンロードすることも可能です。また、解読が必要なファイル形式がいくつか挿入され、コンピュータによってはこの作業に数分かかる場合があります。

一覧に挿入される際は、MP3音声ファイル以外のファイルがMP3（CBR、192kbps）として再エンコードされます。再エンコードには1～2分かかる場合があります。

その他のファイル形式に対応するにはDirectShowコーデックのインストールが必要です。Windowsに事前インストールされている場合がありますので、ファイルを読み込んでみてください。特定のファイルを見るために「全てのファイル」を選択する必要があります場合があります。

MP3 DVD作成時、上記以外のファイル形式はExpress

Burnに認識されません。その他の形式に対してはデータDVDを作成する必要があります。

挿入したファイルを削除する場合は、削除したいファイルを選び「削除」ボタンをクリックするか、ファイルメニューから「削除」を選択してください。複数のファイルを一度に選択するには、Ctrlキーを押しながら選択するファイルを左クリックしてください。全てのファイルを削除するには、メニューから「全て削除」オプションを選択するか、キーボード上でCtrlキーとDeleteキーを押してください。

ドラッグアンドドロップ

ファイル一覧画面へドラッグアンドドロップする形で音声ファイルを一覧に挿入することも可能です。同様に、Express Burnのデスクトップアイコンにファイルをドラッグアンドドロップすることで一覧にファイルを挿入することができます。アイコンにファイルをドロップするとExpress Burnが自動的に起動し、システムトレイにアイコンが現れます。

ファイルの再生

ファイルを再生するには、再生したいファイルを選びメインインターフェース下部の「再生」ボタンを押すか、「ファイル」メニューから「再生」を選択してください。複数のファイルを選択して再生ボタンを押した場合、最初に選択したファイルが再生されます。

WavePadで編集

ファイルメニューの編集オプションを使うと、WavePad音声編集ソフトを使って音声ファイルを編集することができます。Control+Eをキーボードで押すことでもアクセスすることができます。

音量を正規化する

Express

Burnに挿入した音声トラックの音量は正規化することができます。これは、曲中の音量が一番大きい部分を最大音量の一定の割合に合わせることで、各トラックの音量を調節するということです。初期設定の状態では音量は正規化されていません。

挿入したトラック全ての音量を正規化する場合は「現在のディスク」から「正規化レベル」へ行き希望のレベルを選択するか、正規化レベルのプルダウンリストを使って行います。ディスクに書き込まれた全てのトラックが正規化されます。

ファイルの整理

ファイル一覧画面に表示されるファイルはDVDに書き込まれたトラックと同じ順序で並びます。CD書き込み前の順序の変更は、トラックをドラッグし希望の位置にドロップする形で行います。

DVDを書き込む

オーディオをファイル希望の順序に並べ終わった後、DVD-R

またはDVD-RWに書き込みドライブに挿入します。挿入後、「DVDを書き込む」ボタンをクリックするか、メニューから書き込みドライブ->DVDを書き込むを選択、もしくはキーボードのF3を押してください。

次に書き込み設定のプロンプトが表示されます。どの設定を選択したらよいかわからない場合は初期設定を選択してください。選択すべき設定がわかっている場合は、該当する設定を選択してください。ここで決定した設定は今後の書き込みにも使用されます。

選択を終えると挿入されたDVDの確認が行われ、何らかの問題があればメッセージが表示されます（例：ディスクの種類が正しくない、ディスクの容量が不足しているなど）。

書き込み速度はメディアおよびドライブによっても変わりますが、かなり長い時間（20分ほど）がかかる場合があります。書き込みの終わりに「リードイン/リードアウトの書き込み」というプロセスがあり、ドライブやメディアにもよりますが、このプロセスに1~2分かかります。

注意： DVDプレーヤーやカーステレオによってはMP3 DVDに対応していないものもあります。MP3 DVDを書き込む前に、お使いのプレーヤーがMp3 DVDに対応していることをお確かめください。

データタブ - データCDについて

データCDのサイズ指定

データCDも通常74分または80分という長さです。74分は約650メガバイト、また80分は約700メガバイトのデータ保存が可能です。

規定の量を超えたデータを保存（オーバーバーン）することも可能ですが、通常10または20メガバイトが上限です。

ISO またはUDFファイルシステム

Express

BurnはISO+Jolietファイルシステム、ハイブリッドファイルシステム、またはUDFファイルシステムでデータディスクの書き込みができます。ファイルシステムは画面右上、ツールバーの下にあるボタンを使って変更できます。

ファイルシステムとは、ディスクにファイルとフォルダを保存する方法のことです。各システムにはそれぞれ独自の制限や互換性があります。旧式のシステムに対応するには、古いタイプのISOと新しいタイプのUDFの両方を記録できる混合ファイルシステムをお使い

ください。最新のコンピュータおよびオペレーティングシステムはUDFファイルシステムに対応しており、また場合によっては（DVDおよび動画ブルーレイ）UDFが必須となっています。

データCD の制限(ISO)

Express

BurnはJolietエクステンションを使いISO対応モード1のCDを書き込みます。ファイル名とフォルダ階層の制限は以下のとおりです。

- ・ディスクのボリュームラベルは16文字まで。
- ・ファイル名は62文字以内（通常3文字の拡張子を含む）。これ以上の文字は自動的に切り捨てられます。
- ・フォルダは8階層が上限。これはフォルダの中にフォルダを作り、その中にまたフォルダを作るという作業を最高8階層までできるという意味です。
- ・同じ名前のファイルを複数作ることができますが(例：送り側ファイル:sound.wav と、d:sound.wav)、2つ目以降のファイルには自動的に末尾番号が付きます。
- ・個々のファイルは4ギガバイトを越えることができません。

データCD の制限(UDF)

Express

BurnはUDF1.02でディスクを書き込みます。ファイル名とフォルダ階層の制限は以下のとおりです。

- ・ディスクのボリュームラベルは16文字まで。
- ・ファイル名は255文字以内（通常3文字の拡張子を含む）。これ以上の文字は自動的に切り捨てられます。
- ・同じ名前のファイルを複数作ることができますが(例：送り側ファイルc:sound.wav と、d:sound.wav)、2つ目以降のファイルには自動的に末尾番号が付きます。

データCD の制限(ハイブリッド)

殆どのオペレーティングシステムの場合、制限はUDFのものと同様です。旧式のシステム(DOS、Windows

3.11)の場合、制限はISOと同様になります。ファイル名は各ファイルシステムに合わせて調整されますので、旧システムでは62文字に切り捨てられたファイルネームとなり、UDF対応のシステムでは255文字のフルネームが表示されます。

データタブ - データディスクの作り方

データCD、DVD、ブルーレイ、HD-DVD (MP3 CD/DVDを含む)

mp3 CDまたはDVDの作り方

mp3

CDおよびDVDはmp3ファイルを書き込むためのデータディスクです。ディスクの書き込み方法は以下のとおりです。

データCD、データDVD、データブルーレイの作成方法

注意：データDVDはExpress Burnプラス版でのみお使いいただけます

データCD/DVDの作成は以下のステップで行います：

1. 作成するディスクとして「データ」ディスクを選択します
2. ボリュームラベルを変更します(オプション)
3. 使用するファイルシステムを選択します(オプション)
4. ファイルの挿入と削除
5. フォルダを作成しフォルダ内にファイルを挿入します
6. データディスクを書き込みます

各ステップの詳細は以下のとおりです。

コンピレーションを選択する

ディスクの種類はツールバー（メイン画面上部のアイコンが並んでいる列）の「データ」タブから「データCD」、「データDVD」または「データブルーレイ」のいずれかを選んでください。また、ツールバーの新規ディスクボタンをクリックするか、「現在のディスク」メニューからディスクタイプへ行くことでデータの種類を選ぶことができます。また、ショートカット一覧にあるショートカットキーでも同じことができます。

ボリュームラベルを変更

1行目にある小さなディスクのアイコンがボリュームラベルです。初期設定ではラベルと書かれています。変更するにはラベルを選択しキーボードのF2を押してください。16文字の制限がありますのでご注意ください。

使用するファイルシステムを選択する(ISO、ハイブリッドまたはUDF)

ファイルシステムはディスクにデータを保存する方法です。殆どの場合は「ISO/Joliet」を使う旧式のPCとの互換性を高めるために「ハイブリッド」をお使いください。使用するファイルシステムは画面右上の「ISO/Joliet」または「ハイブリッド」、「UDF」と書かれたボタンを使って選択することができます。このボタンで各ファイルシステム間の切替えを行います（キーボードのCtrlボタンとSを同時に押すことでも同様に機能します）。

ファイルシステムについての詳細はこちら：[データCDについて](#)。

ファイルの挿入と削除

データディスクには種類を問わずファイルやフォルダを挿入できます。フォルダを挿入するとフォルダ内の全てのファイルとサブフォルダが挿入されます。ファイルは「ファイルを挿入」ボタンを押すか、Express Burnのメイン画面にドラッグアンドドロップすることで挿入できます。フォルダの挿入も同様の手順で行えます。

ファイルの削除は音声CDファイルと同様の手順で行えます。フォルダを削除するとフォルダ内の全てのファイルとサブフォルダも削除されますのでご注意ください。また、ボリュームラベルを削除するとコンピレーションの全てのファイルが削除されます。

フォルダ内のファイルの順序は変更できません。ファイルシステムによりアルファベット順に並べられます。フォルダ内のファイルをドラッグアンドドロップで別のフォルダへ移すことはできません。

フォルダを作成しフォルダ内にファイルを挿入します

ツールバーのファイルから「フォルダを作成」を選ぶと、選択したフォルダに新しいフォルダを挿入することができます。まず、新しいフォルダを挿入したいフォルダを選択します（ファイルを選択した状態で「フォルダを作成」を選ぶと、そのファイルが入っているフォルダ内に新しいフォルダが作成されます）。新しいフォルダには初期設定で「フォルダ1」という名前が付きます。

ファイルやフォルダはファイル名をクリックし新しい名前を入力することで変更できます。拡張子を消さないようご注意ください。

ISOファイルシステムを使用する場合ファイル名は62文字まで、フォルダ階層は8階層までという制限があります。

データディスクを書き込む

ファイルの準備が整った後は正しい種類のディスク（例：

DVD+R、DVD-R、DVD-RW、データDVD

用DVD+RW)に書き込みドライブに挿入します。挿入後、「CDを書き込む」ボタン（または「DVDを書き込む」など）をクリックするか、メニューから書き込みドライブ->CDを書き込む(または「DVDを書き込む」)を選択するか、もしくはキーボードのF3を押してください。

次に 書き込み設定のプロンプトが表示されます。どの設定を選択したらよいかわからない場合は初期設定を選択してください。選択すべき設定がわかっている場合は、該当する設定を選択してください。ここで決定した設定は今後の書き込みにも使用されます。

ここで挿入されたディスクの確認が行われます。使用済みの書き込み可能ディスク (CD-RW、DVD-RW、DVD+RW、BD-RE)に挿入した場合、内容を消去し音声CDの書き込みを行ってよいか確認が入ります。

書き込み速度はメディアおよびドライブによっても変わりますが、かなり長い時間（20分ほど）がかかる場合があります。書き込みの終わりに「リードイン/リードアウトの書き込み中」というプロセスがあり、ドライブやメディアにもよりますが、このプロセスに1～2分かかります。

動画タブ -

データDVD/ブルーレイについて (Express Burnプラス版のみ)

データディスク(DVD/ブルーレイ)のサイズ指定

データDVDは通常ギガバイトでサイズが表示され、4.7ギガバイトまたは4800メガバイトのものが一般的です。ブルーレイディスクの場合、一般的に25または50ギガバイトとなっています。

データディスクの制限

殆どのドライブはDVDのオーババーンに対応していないため、DVDではこの設定が機能しない場合がよくあります。

それ以外はデータCDの制限と同様です。

Express

Burnは書き込み可能DVD(DVD-R、DVD+R、DVD-RW、DVD+RW)およびブルーレイ(BD-R、BD-RW)の全ての形式に対応しています。

動画タブ - 動画DVDについて (Express Burnプラス版のみ)

動画DVDとは一般的なDVDプレーヤーで再生可能なムービーが保存されたディスクのことです。Express Burnを使えば各種の映像ファイルの書き込みが可能です (拡張子: avi、mpg、asf、wmv、mov、vobなど)。各ファイルは一般的なDVDムービーに自動変換・フォーマットされ、順々に再生することができます。

DVDムービーディスクの作成にはかなりの大きさのハードドライブスペースが必要になります。ムービーファイルの長さにもよりますが、ディスクのサイズプラス1ギガバイト (通常約5ギガバイト) が必要です。

ムービーは1つのVTSにつき1つ作成され、ステレオMP2音声の各種ビットレートMP EG2 動画ファイルにエンコードされます。VIDEO_TS

およびAUDIO_TSの標準DVDフォルダが作成され、VIDEO_TSフォルダには必要な全てのファイルが入ります (AUDIO_TSは空)。ディスクはハイブリッドファイルシステムを使って書き込まれます。

動画タブ - 動画ブルーレイについて (Express Burnプラス版のみ)

動画ブルーレイとは一般的なブルーレイプレーヤーで再生可能な映像が保存されたディスクのことです。Express

Burnを使えば各種の映像ファイルの書き込みが可能です (拡張子: avi、mpg、asf、wmv、mov、vobなど多数)。これらは全て標準的なブルーレイムービー形式に自動変換されます。

動画の長さにもよりますが、ブルーレイ動画ディスクの作成にはハードドライブにかなりの空き容量が必要になりますのでご注意ください。

メモ:

ブルーレイムービーは各動画につき1つのストリーム (チャプタポイント入り) が入った単一のプレイリストを作成します。各ストリームは1920x1080 (16:9ワイド画面) または1440x1080 (4:3標準画面) の解像度および96KHz

24ビット2チャンネルLPCM音声のH.264

/AVC動画 (可変ビットレート、品質、フレームレートはそれぞれ動画設定ダイアログで調整可能) でエンコードされます。任意メニューシステムを含む、ブルーレイプレーヤーでの再生に必要な領域が全て作成されます。ディスクはUDFファイルシステムで書き込まれます。

動画タブ - 動画DVDの作り方

動画DVD

ご家庭のDVDプレーヤーで再生可能なDVDの作り方;

1. 作成するディスクとして「動画DVD」を選択します
2. 動画ファイルの挿入や削除を行います
3. ファイルを希望の順序とタイトルにアレンジします（任意）
4. 動画にチャプタを挿入します（任意）
5. エンコードオプションを選択します（任意）
6. 動画DVDを書き込みます

各ステップの詳細は以下のとおりです。

作成するディスクのタイプを選択します

ビデオの種類はツールバー（メインメニュー上部でアイコンが並んでいる部分）の「動画」タブから「ビデオDVD」ボタンを選ぶことで行います。また、ツールバーの新規ディスクボタンをクリックするか、「現在のディスク」メニューからディスクタイプへ行くことでデータの種類を選ぶことができます。キーボードのCtrl+I押しでも同様のことが行えます。

動画ファイルを挿入・削除

動画ファイルをDVDに挿入するには、「ファイルを挿入」または「フォルダを挿入」をクリックするか、もしくは「ファイル」メニューから「ファイルを挿入」を選択してください。閲覧画面が開きますので、ここで以下の動画ファイル形式を選択してください：

.AVI .MPG .MPEG .ASF .WMV .MOV .MP4 .3GP .DIVX .MKV .M4V .FLV .VOB
これらのファイル形式のいくつかは選択したファイル形式の解読用に自動的にプラグインをダウンロードします。インターネットに接続できる環境に無い場合、別途当社のウェブサイトからダウンロードして当該コンピュータにダウンロードすることも可能です。また、解読が必要なファイル形式がいくつか挿入され、コンピュータによってはこの作業に数分かかる場合があります。

その他のファイル形式に対応するにはDirectShowコーデックのインストールが必要です。Windowsに事前インストールされている場合がありますので、ファイルを読み込んでみてください。特定のファイルを見るために「全てのファイル」を選択する必要がある場合があります。

挿入したファイルを削除する場合は、削除したいファイルを選び「削除」ボタンをクリックするか、ファイルメニューから「削除」を選択してください。複数のファイルを一度に選択するには、Ctrlキーを押しながら選択するファイルを左クリックしてください。全てのファイルを削除するには、メニューから「全て削除」オプションを選択するか、キーボード上でCtrlキーとDeleteキーを押してください。

ドラッグアンドドロップ

ファイル一覧画面へドラッグアンドドロップする形で動画ファイルを一覧に挿入することも可能です。同様に、Express Burnのデスクトップアイコンにファイルをドラッグアンドドロップすることで一覧にファイルを挿入することができます。アイコンにファイルをドロップするとExpress Burnが自動的に起動し、システムトレイにアイコンが現れます。

ファイルの再生

ファイルを再生するには、再生したいファイルを選びメインインターフェース下部の「再生」ボタンを押すか、「ファイル」メニューから「再生」を選択してください。複数のファイルを選択して再生ボタンを押した場合、最初に選択したファイルが再生されます。

ファイルを希望の順序とタイトルで整理する

動画DVD

のムービーはそれぞれタイトルごとに整理されます。一覧の「タイトル」欄を見るとどのタイトルがどのムービーかがわかります。同じタイトルの全ての動画は1つにまとめられ、最初から最後まで切れ目無く再生されます。Express

Burnに挿入した動画はまずタイトルの一番後ろに挿入されます（最初に挿入した動画は1番目に来ます）。動画DVDには最高99タイトルまで入れることができます。

ファイル一覧画面に表示されるファイルは動画DVDに書き込まれた動画と同じ順序で並びます。CD書き込み前の順序の変更は、ファイルをドラッグし希望の位置にドロップする形で行います。ファイルはドラッグした場所の直前のムービータイトルに挿入されます。作業後は全てのタイトルが更新され、タイトル一覧にギャップが生じないか確認が行われます（例：1、2、3、4、5など）。

動画にチャプタを挿入する

タイトル内の全ての動画にチャプタを設定することで特定のシーンに簡単にスキップすることができます。タイトル内の動画は一つ一つにチャプタを挿入することができます。タイトルのファイルをインポートするか、または特定の位置を選択したい場合は「チャプタを管理する」オプションをお使いください。チャプタポイントは各動画の冒頭が基準となります。ムービー全体を基準としたチャプタのリストがある場合、タイトルの最初の動画に挿入してください。

ファイル一覧画面に表示されるファイルは動画DVDに書き込まれた動画と同じ順序で並びます。CD書き込み前の順序の変更は、ファイルをドラッグし希望の位置にドロップする形で行います。ファイルはドラッグした場所の直前のムービータイトルに挿入されます。作業後は全てのタイトルが更新され、タイトル一覧にギャップが生じないか確認が行われます（例：1、2、3、4、5など）。

エンコードオプションを選択する

DVD動画にはエンコードオプションを選択することができます。オプションには動画を再生するTVシステムも含まれます。例えば米国はNTSC、オーストラリアはPALシステムを使っています。また、動画の品質やエンコード時間、ファイルサイズなどに関する様々な品質オプションを選択いただけます。

動画DVDを書き込みます

動画ファイルを希望の順序に並べ終わった後は、DVD-R、DVD+R、DVD-RW、DVD+RWをDVD書き込みドライブに挿入します。挿入後「動画DVDを書き込む」ボタンをクリックするか、「書き込みドライブ」メニューから「動画DVDを書き込む」を選択してください。

次に書き込み設定のプロンプトが表示されます。どの設定を選択したらよいかわからない場合は初期設定を選択してください。選択すべき設定がわかっている場合は、該当する設定を選択してください。ここで決定した設定は今後の書き込みにも使用されます。

ここで挿入されたディスクの確認が行われます。使用済みのDVD-RWまたはDVD+RWを挿入した場合、内容を消去しディスクの書き込みを行ってよいか確認が入ります。

書き込み速度はメディアおよびドライブによっても変わりますが、かなり長い時間（20分ほど）がかかる場合があります。書き込みの終わりに「リードイン/リードアウトの書き込み中」というプロセスがあり、ドライブやメディアにもよりますが、このプロセスに1～2分かかります。

動画タブ - 動画ブルーレイディスクの作り方

動画ブルーレイ

ご家庭のブルーレイプレーヤーで再生可能なブルーレイの作り方：
(ブルーレイ書き込みドライブが必要です)。

1. 作成するディスクとして「動画ブルーレイ」を選択します
2. 動画ファイルの挿入や削除を行います
3. ファイルを希望の順序とタイトルにアレンジします (任意)
4. 動画にチャプタを挿入します (任意)
5. エンコードオプションを選択します (任意)
6. メニューを挿入します (任意)
7. 動画ブルーレイを書き込みます

各ステップの詳細は以下のとおりです。

作成するディスクのタイプを選択します

動画ブルーレイの種類はツールバー (メインメニュー上部でアイコンが並んでいる部分) の「動画」タブから「動画ブルーレイ」ボタンを選ぶことで行います。また、ツールバーの新規ディスクボタンをクリックするか、「現在のディスク」メニューからディスクタイプへ行くことでデータの種類を選ぶことができます。キーボードのCtrl+Hを押しても同様のことが行えます。

動画ファイルを挿入・削除

動画ファイルをブルーレイに挿入するには、「ファイルを挿入」または「フォルダを挿入」をクリックするか、もしくはメニュー項目のファイル-「挿入」を選択してください。閲覧画面が開きますので、ここで以下の動画ファイル形式を選択してください：

.AVI .MPG .MPEG .ASF .WMV .MOV .MP4 .3GP .DIVX .MKV .M4V .FLV .VOB
これらのファイル形式のいくつかは選択したファイル形式の解読用に自動的にプラグインをダウンロードします。インターネットに接続できる環境に無い場合、別途当社のウェブサイトからダウンロードして当該コンピュータにダウンロードすることも可能です。また、解読が必要なファイル形式がいくつか挿入され、コンピュータによってはこの作業に数分かかる場合があります。

その他のファイル形式に対応するにはDirectShowコーデックのインストールが必要です。Windowsに事前インストールされている場合がありますので、ファイルを読み込んでみてください。特定のファイルを見るために「全てのファイル」を選択する必要がある場合があります。

挿入したファイルを削除する場合は、削除したいファイルを選び「削除」ボタンをクリックするか、ファイルメニューから「削除」を選択してください。複数のファイルを一度に選択するには、Ctrlキーを押しながら選択するファイルを左クリックしてください。全てのファイルを削除するには、メニューから「全て削除」オプションを選択するか、キーボード上でCtrlキーとDeleteキーを押してください。

ドラッグアンドドロップ

ファイル一覧画面へドラッグアンドドロップする形で動画ファイルを一覧に挿入することも可能です。同様に、Express

Burnのデスクトップアイコンにファイルをドラッグアンドドロップすることで一覧にファイルを挿入することができます。アイコンにファイルをドロップするとExpress Burnが自動的に起動し、システムトレイにアイコンが現れます。

ファイルの再生

ファイルを再生するには、再生したいファイルを選びメインインターフェース下部の「再生」ボタンを押すか、「ファイル」メニューから「再生」を選択してください。複数のファイルを選択して再生ボタンを押した場合、最初に選択したファイルが再生されます。

ファイルを希望の順序とタイトルで整理する

動画ブルーレイ内の各動画はタイトルのプレイリスト順に並べられます。各動画の一覧表示画面の「タイトル」欄は再生順に並んでいます。Express Burnに挿入された動画は一覧の末尾に挿入されるよう初期設定されています。ファイル一覧画面に表示されるファイルはブルーレイに書き込まれた動画と同じ順序で並びます。CD書き込み前の順序の変更は、ファイルをドラッグし希望の位置にドロップする形で行います。

動画にチャプタを挿入する

タイトル内の全ての動画にチャプタを設定することで特定のシーンに簡単にスキップすることができます。タイトル内の動画は一つ一つにチャプタを挿入することができます。タイトルのファイルをインポートするか、または特定の位置を選択したい場合は「チャプタを管理する」オプションをお使いください。チャプタポイントは各動画の冒頭が基準となります。ムービー全体を基準としたチャプタの一覧がある場合、一覧の最初の動画に挿入してください。

エンコードオプションを選択する

ブルーレイムービーのエンコード品質を選択する場合は「動画エンコード設定」ボタンを押してください。品質が高くなるほどエンコード時間が長くなり、ブルーレイディスクで使われる容量が大きくなります。

品質の設定は使用できる動画の長さにも影響します（例：設定を低くするとディスクに記録できる時間が長くなります）。残り時間はあくまでも推定時間ですのでご注意ください。エンコードされた動画の最終的なサイズは、エンコードされた動画の複雑さにより異なります。細かく、また動きの多い映像（ウォータースポーツの映像など）は、あまり動きの無い映像に比べて多くの容量を必要とします。

また、フレームレートを選擇することも出来ます。一般的には毎秒24フレームのプロGRESSIVE走査が最適ですが、フレームレートの高い動画には毎秒30フレームのインターレース走査が適している場合があります。

メニューシステムを挿入する

ブルーレイにメニューを挿入する場合は、「メニューを作成する」ボタンを押してください。メニューダイアログ上で既にデザイン済みのメニュー用テンプレートの選擇とダウンロードができます。テンプレートを選択後、タイトルと副題を入力します（右側の画面にプレビューが表示されます）。また、必要に応じて背景画像を変更することができます。

メニューを選択するとブルーレイディスクを再生する際にメニュー画面が表示され、再生する動画を一覧から選ぶことができますようになります。また、必要に応じて複数のメニューページを作成することができ、メニュー間は「前へ」および「次へ」ボタンで移動することができます。

動画ブルーレイを書き込む

動画ファイルを希望の順序に並べ終わった後は、BD-R、BD-RE（書き込み可能ブルーレイディスク）をブルーレイ書き込みドライブに挿入します。挿入後「動画ブルーレイを書き込む」ボタンをクリックするか、「ファイル」メニューから「動画ブルーレイを書き込む」を選択してください。

次に 書き込み設定

のプロンプトが表示されます。どの設定を選択したらよいかわからない場合は初期設定を選択してください。選択すべき設定がわかっている場合は、該当する設定を選択してください。ここで決定した設定は今後の書き込みにも使用されます。

ここで挿入されたディスクの確認が行われます。使用済みのBD-REを挿入した場合、内容を消去しディスクの書き込みを行ってよいか確認が入ります。

動画のエンコーディング作業には時間がかかる場合がありますのでご注意ください。ブルーレイディスクへの書き込みの場合、お使いのメディアと書き込みドライブにもよりますが、場合によっては30分ほど時間がかかることがあります。

動画タブ - VideoPadを使って動画を編集

動画をVideoPad動画編集ソフトに読み込んで編集することができます。Control+Shift+Eをキーボードで押すことでもアクセスすることができます。

メモ：VideoPadで編集しただけでは動画ファイルは変更されません。編集された動画を書き込むには、VideoPadから動画をエクスポートして再度ExpressBurnに読み込んでください。

ISOタブ - ISOイメージを作成

指定したドライブからISOまたは画像ファイルを作成します。

ISOタブ - ISOを書き込む

ISOファイルをディスクに書き込みます。

ISOタブ - ISOイメージ (Express Burn プラス版のみ)

Express

BurnはISOイメージファイルの作成および書き込みが可能です。これはデータCDの1:1

コピーのことで、.ISOまたは.IMGの拡張子が付いたファイル形式で書き込まれます。音声CDのISOイメージは作成できません。

Express

Burnではコピープロテクションがかかったディスクのコピーはできません。コピーを試みると不完全なCDが出来上がります。

ISOイメージを作成する

「書き込みドライブ」メニューオプションから、「ディスクからISOイメージを作成する」オプションを選択してください。次に、作成するISOイメージの名前を確認します。書き込みドライブから読み込み、ISOイメージが作成されます。

ISOイメージを書き込む

「書き込みドライブ」メニューオプションから、「ディスクにISOイメージを書き込む」オプションを選択してください。ISOイメージの選択と書き込み設定へ進みます。これが終わるとイメージがCDに書き込まれます。

このオプションではISOイメージと同一のIMGファイル(*.img)の書き込みも可能です。

ディスクを書き込む - 書き込み設定

書き込みプロセスを変更するため、以下の設定を変更することができます。初期設定と書かれているものはあらかじめ選択されたものです。Express Burnを使う上で何度も同じ設定を入力しなくて済むよう、設定事項は保存されます。

書き込みドライブ

書き込みを行うドライブを選択します。

データディスクには「イメージファイル」を選択することができます。こうすることでISOファイル（例：image.ISO）をハードドライブに作成することができます。こうしたファイルは書き込みドライブメニューから「ISOイメージを書き込む」オプションを選ぶことで、後から書き込むことができます。この機能はExpress Burnプラス版でのみお使いいただけます。

書き込み速度

書き込みを行う速度を選びます。使用するドライブおよびメディアに適した速度のみが表示されます。通常、できるだけ速く書き込みを行うため[最速]を選びます。

枚数

書き込みを行うディスクの枚数を設定します（初期設定は1枚）。

オーバーバーンを使う

このオプションを選択すると、Express

Burnは書き込みを行うファイルの合計がメディアのサイズを越えている場合でも、全てのファイルの書き込みを試みます。書き込みに失敗した場合はファイルの数を減らしてください。DVDメディアではこのオプションが機能することは稀ですのでご注意ください。

書き込み済みの内容を消去する

このオプションにチェックを入れると、上書きが可能なディスク（CD-RW、DVD-RW、DVD+RW、BE-REなど）に書き込む際は既に書き込まれている内容を自動的に消去します。このオプションにチェックが入っていない状態で、書き込み済みのディスクに書き込みを行おうとすると書き込みがキャンセルされる旨を伝えるメッセージが表示されます。書き込みドライブメニューから「書き込み済みディスクの内容を消去する」を選択することでも消去することができます。

初期設定のトラック間のポーズを使う

セッションアットワンスで書き込み、ポーズをカスタマイズする

トラック間のポーズ

音声CDの各トラック間には2秒のポーズが入るよう初期設定されています。初期設定を使うには、「初期設定のポーズを使う」を選択してください。ゼロ秒（ポーズ無し）を含むその他の長さのポーズに変更したい場合は、「セッションアットワンスで書き込み、ポーズをカスタマイズする」を選択してください。ここで「トラック間のポーズ」の値を希望の秒数に変更します。

旧式のドライバーはポーズのカスタマイズに対応していないものもありますので、その場合は「初期設定のトラック間のポーズを使う」を選択してください。対応していないドライブで書き込みを行った場合、パラメーターの設定に対するエラーが表示され、書き込みに失敗します。

ポーズの長さをカスタマイズすると、Express

Burnはセッションアットワンスで書き込みを行い、書き込み前に音声デコードされます。これにより最大で700メガバイトの多量な一時ファイルが作成されます。このオプションをお使いの際はこの点にご注意ください。

認証

データディスクの書き込みにこのオプションを選択すると、ディスクの書き込み後にデータの内容が正しいか確認が入ります。安価なディスクでは特にディスクの最後に書き込みに関する問題が生じる場合がありますので、このオプションを選びデータが正しく書き込まれたか確認してください。

ディスクを完成させる

トラックアットワンスで書き込まれた音声ディスク（トラック間のポーズのカスタマイズをしなかった場合）は、ディスクを完成させずにおくことができます。完成しないでおくと後から他のトラックを挿入することができます。ディスクの編集が完了した時点で完成オプションを選択してください。完成されて無いディスクはCDプレーヤーによっては再生できない場合があります。

ディスクを書き込む - ディスクをコピー

Express

Burnはデータおよび音声ディスクのコピーが可能です。DVDやブルーレイディスクのコピーを行うにはExpress Burnプラス版をお使いください。

コピーはツールバーの「ディスクをコピー」ボタンをクリックするだけで簡単に行えます。ボタンをクリックするとコピーの送り側ドライブに進みます。音声CDをコピーする場合は音声トラックのリッピングに進みます。データディスクの場合、全てのデータを巨大な一時フォルダに読み込みます。コピーを行うディスクのサイズに応じた空き容量が必要ですのでご注意ください。

次に受け側ディスクと関連書き込み設定に進みます。それが終わるとディスクの書き込みが行われます。

ディスクを書き込む - 書き込みエラー

このダイアログはディスクの書き込み中に発生したエラーを表示します。画面下部の一覧は、書き込みを行うファイルが見つからない、または認証エラーなど、書き込み中に発生した重要でないエラーを表示します。ここにリストアップされたファイルは正しい内容のディスク書き込みが行われませんが、その他のファイルは問題ないはずです。

ディスクを書き込む - トラブルシューティング

CD/DVDの書き込みに失敗する典型的な原因がいくつかあります。まず以下の点につきご確認ください：

1. 書き込み中はコンピュータを使用しないでください。書き込み作業は非常に繊細なため、他のアプリケーションを使用すると書き込みに問題が生じる場合があります。
2. 書き込みドライブは使用するディスクメディアに敏感です。メディアによってはある書き込みドライブを使用すると毎回書き込みに失敗し、別のドライブでは問題が無いというケースがあります。これは後半のトラックに問題が発生する場合によくあるケースです。様々なブランドを使って試してみてください。
3. ディスクの表面に手で触れないでください。指紋が付着すると書き込みや読み込みのプロセスに悪影響を与えます。ディスクは常に中央または端を持つようにしてください。
4. 書き込み可能ディスク(CD-RW、DVD-RW、DVD+RW、BD-RE、またはCD-R、DVD-R、DVD+R)に傷が付いた場合も書き込みに支障が生じます。傷が付いているディスクは使用しないようにしてください。
5. Windows
95または98を使う場合はASPIレイヤーをインストールする必要があります。Windows 95をお使いの場合、正しいバージョンを使っているか確認してください。Adaptecのバージョン4.60がWindows 95を使える最後のバージョンです。
6. お使いの書き込みドライブのファームウェアが原因でエラーが発生する場合もあります。特にブルーレイ書き込みドライブBWU-100Aは搭載されたファームウェアでは書き込めないDVDメディアがあります。メディアの書き込みエラーはお使いのファームウェアをアップグレードすることで解決する場合があります。アップグレードの方法はお使いのドライブの製造メーカーのウェブサイトをご覧ください。作業を誤るとドライブが使用できなくなる可能性がありますのでご注意ください。
7. 書き込み速度はディスクの書き込みに様々な影響を及ぼします。お使いの書き込みドライブやディスクが対応できる最高/最低書き込み速度をご確認下さい。一般に、書き込み速度を遅くすることで書き込みの質がアップすると思われていますが、常にそうであるとは限りませんのでご注意ください。お使いになるディスクを確認し、書き込み速度が1種類（例：4x）しか指定されていない場合は、指定された速度で書き込みを行って下さい。書き込み速度の範囲が指定されている場合（例：4x-12x）はこの範囲内の速度で書き込みを行って下さい。

Windows

XPをお使いの場合、CD/DVD/ブルーレイディスクを書き込む際は管理者としてWindowsにログインする必要があります。

これを怠ると様々なエラーが発生する可能性があります。ASPIレイヤーをお使いの場合（通常、Windows

9xユーザー）バグのあるバージョンである可能性があります。お使いのバージョンをお確かめの上、必要に応じて最新版にアップデートしてください。

Windows

XPでUDFで書き込みを行った動画用またはデータブルーレイディスクを使用する場合、ディスクの読み取りおよび書き込みには別途UDF2.5ドライブが必要になります。

ディスクを書き込む - プロジェクトファイル

Express Burnは音声、動画またはデータファイルをExpress Burnプロジェクト(.ebp)として保存し読み込むことが可能です。

プロジェクトファイルを使うと音声トラック、動画、データファイルの一覧、またCD-TEXT設定や動画のチャプタポイントなどの追加データを簡単に保存し読み込むことができます。

プロジェクトを保存する

「ファイル」メニューから「プロジェクトを保存」オプションを選択します。プロジェクトファイルのファイル名と保存場所を指定するよう要求されます。

保存したプロジェクトを読み込む

「ファイル」メニューから「プロジェクトを読み込む」を選択します。プロジェクトファイルのファイル名と保存場所を指定するよう要求されます。指定が完了するとExpress

Burnは指定されたプロジェクトの読み込みを開始し、プロジェクトに沿ったモードに切り替わります。

注意：プロジェクトファイルが保持している情報は保存場所のみです（保存を行ったコンピュータの音声/動画/データの送り側ファイルの保存場所）。送り側ファイルを削除または移動した場合、プロジェクトを再読み込みした際にファイルが使用できなくなることがあります。

ディスクを書き込む - デコーダ設定

拡張子が.voxまたは.rawのファイルを再生または変換する場合、これらのファイルが最初に読み込まれるようにするためには、いくつかの追加情報が必要になります。再生または変換ボタンを選択後に表示されるデコーダ設定ダイアログボックス上で情報の確認が行われます。ダイアログボックス上で入力が必要な情報は以下のとおりです：

ファイル形式

プルダウンメニューからファイルのデータ形式を選択してください。

サンプル

プルダウンメニューからファイルのサンプリング周波数を選択するか、希望の値を入力してください。

チャンネル

プルダウンメニューからファイルにエンコードするチャンネル数を選択してください。

設定はファイルの内部構造に一番近いものを選ぶようにしてください、これを誤ると再生または変換されたファイルの音声が劣化する場合があります。どの設定を選択してよいかわからない場合は、初期設定を使うか、もしくは様々な設定を試してみてください。.voxまたは.rawファイルを複数変換する場合、設定の確認は最初のファイルでのみ行われ、後続のファイルには最初のファイルで使用した設定が使われます。

ディスクを書き込む - 詳細設定

起動可能ディスク

データディスクをCDやDVD、またはブルーレイに書き込む場合、起動可能ディスク（ディスクをコンピュータに読み込んだ状態でコンピュータを起動するとコンピュータをハードドライブではなくディスクから起動させることができるディスク）として作成することができます。起オペレーティングシステムのインストールディスクや、システム回復ディスクなどがこの例に当てはまります。

Express

Burnは以下の2つが揃っていることを条件に、こうしたディスクを作成できます；

1. ディスクには起動に必要な全てのファイルが入っていること、すなわち完全起動可能オペレーティングシステムであること。必要なファイルはインストールディスクに入っており、内容はオペレーティングシステムごとに大幅に違います。挿入する必要があるファイルについての詳細は各種オンラインリソースをご覧ください。
2. ブートセクタ。起動可能ディスクの最小セクションのイメージのことです。ブートセクタを抽出できるユーティリティは数多く存在し、通常インターネット検索で見つけることができます。また、これらはお使いのオペレーティングシステムごとに大幅に異なります。お勧めのユーティリティはRoadkilのBoot Builderです：

<http://www.roadkil.net/program.php?ProgramID=3>

この2つが揃っていれば、Express

Burnで起動可能ディスクを書き込むことが可能です。オペレーティングシステムのファイルとフォルダを新しいディスクに挿入し書き込みを行ってください。書き込み設定の項目では「詳細」をクリックし、ディスクが起動可能であることおよびブートセクタのファイルを選択してください。

注意：

ISOイメージを書き込む場合は、ブートセクタ、オペレーティングシステム共にイメージに含まれるため、これらの作業は必要ありません。

注意：

純粋なUDFディスクからは起動できません。起動可能ディスクのオプションを設定した場合、起動を可能にするためにディスクはハイブリッドディスクに変換されます。

ディスクを書き込む - コマンドラインオプション

Express

BurnはWindowsのコマンドラインでの操作も可能です。どのオプションも使用および再使用が可能です。コマンドラインオプションを使用中はプロンプトは行われません。書き込み設定などのオプションは最後に使った設定がその後のデフォルトとなります。オプションは以下のとおりです：

-driveは書き込みを行うドライブの文字（例：d）を選択します。作成するISOイメージの場所を直接指定することもできます(例：c:\temp\image.iso)

-clearは現在のリストを消去します。対話はいつもこれを使って始めてください。

-type

audioはコンピレーションを音声CD(CD-DA)に設定します。ファイルの前には必ずこれが必要です。

-type

dataはコンピレーションをデータCDに設定します。ファイルの前には必ずこれが必要です。

-type

dvdはコンピレーションをデータDVDに設定します。ファイルの前には必ずこれが必要です。

-type

blurayはコンピレーションをデータブルーレイに設定します。ファイルの前には必ずこれが必要です。

-label

labelはデータCD/DVDのボリュームラベルを設定します。音声CDには不要です。

-copies [n]はExpress Burnが書き込むディスクの枚数をn枚に設定します

-hideはExpress Burnを隠します

-showはExpress Burn画面を表示します。

-list 「ListFilePath」 ListFilePath

は書き込みを行うファイルのリストを含むテキストファイルです。1行につき1つのファイルの場所。

-file 「FilePath」 Add the file to the current compilation/

「FilePath」 現在のコンピレーションにファイルを挿入します。（例：対話が無い場合）

-burnファイルをCDに書き込みます（-exit以外の全ての対話はこの対話の前に処理されます）

-eraseは読み込まれている書き込み可能ディスクを消去します。

-isocreate 「FilePath」 以下の名前のISOイメージ：「FilePath」

をドライブに読み込んだディスクから作成します。

-isowrite 「FilePath」 以下のISOイメージ：「FilePath」

を書き込みドライブに書き込みます。

-normalize nnは音量正規化レベルを設定します

(0～100で、0は正規化しないという意味)

-copy [d]は選択したドライブにあるディスクを出力ドライブdにコピーします

例:

```
"C:\Program Files\NCH Software\ExpressBurn.exe" -clear -type data -label "MyCD" -list "C:\MyDocuments\file.txt" -burn -exit
```

C:\MyDocuments\file.txtの全てのファイルをデータCDとして書き込み、Express Burnを終了する。

```
"C:\Program Files\NCH Software\ExpressBurn.exe" -clear -type audio
```

```
"C:\SomeFolder\track1.wav" "C:\SomeFolder\track2.mp3"
```

```
"C:\SomeFolder\track3.mp3" -burn
```

3トラックの音楽CDを作成する（トラック1は.wav、トラック2は.mp3、トラック3は.mp3）。ファイルは必要に応じて変換されます。Express Burnは書き込み終了後も実行を続けます。

各画面について - 動画をプレビュー

プレビューダイアログには以下の5つのボタンがあります：

- **先頭へ戻る (Home)**：動画の冒頭に戻ります。DVDプレーヤーでDVDの冒頭に頭出しするような機能です。
- **コマ戻し (左方向)**：ボタンをクリックすると動画が少し前に戻ります。DVDプレーヤーの早戻しボタンを押すのと同様の機能です。
- **再生/一時停止 (スペースバー)**：DVDプレーヤーの再生/一時停止ボタンと同じようなボタンです。再生ボタンをクリックすると再生が始まり、再度クリックすると再生が一時停止されます。
- **コマ送り (右方向)**：ボタンをクリックすると動画が少し先に移動します。DVDプレーヤーの早送りボタンを押した後に一時停止ボタンを押すのと同様の機能です。
- **末尾に移動 (End)**：動画の末尾に戻ります。DVDプレーヤーでDVDの末尾に頭出しするような機能です。

動画のすぐ下にはタイムラインがあります。タイムラインをクリックすると、クリックした時間の画面に移動します。ビデオの頭出しのような機能です。タイムラインのカーソルをドラッグする方法で動画内を移動することもできます。ドラッグ中はカーソルの位置に合わせて画面も動きます。

プレビューモードには以下の3種類があります：

- **ウィンドウの大きさに合わせる**：これがデフォルトのプレビューモードです。動画がプレビュー領域のサイズに合わせて表示されます。このモードを選択すると、ウィンドウの高さがデフォルトの高さより低い場合ウィンドウの高さがデフォルトの値に自動的に変更されます。ウィンドウのサイズが変更される（例：ウィンドウの端をドラッグして画面を広げる）と、プレビューモードはこのデフォルトに戻ります。
- **画面の大きさに合わせる**：ウィンドウが画面の大きさに合わせて広がり、動画がプレビュー画面のサイズに合わせた大きさで表示されます。
- **実際のサイズ**：プレビュー画面が実際の動画のサイズに合わせて表示されます。動画のサイズが画面のサイズより大きい場合（例：720pの画面で1080pの動画を再生）は自動的に以下のモードに変わります：**画面の大きさに合わせる**。

また、**Alt + Enter** キーを使って全画面モードを切り替えることができます。

各画面について - カラー ピッカー ダイアログ

カラー ピッカー ダイアログ

カラーピッカーを使うと様々な方法で簡単に色を選択することができます。

画面を見ながら色を調整

画面上部には色パレットとスライダがあります。画面左側には256x256の色パレットがあり、右側のスライダを上下に動かすとパレットの色系統が変わります。また、パレットの下にあるラジオボタン（以下で詳しく説明します）をクリックすることでもパレットとスライダの色系統が変わります。パレットをクリックするとクリックした場所の色が選択されます。

RGBまたはHSVの値を使って色を調整

色パレットの下には色相、彩度、明度、赤、緑、青の6つのラジオボタンがあり、それぞれにスライダと数値の入力ボックスがあります。色相、彩度、明度のいずれかのラジオボタンにチェックを入れると、選択したオプションの値がパレットとスライダに視覚的に表示され、残りの2つの値が左側のボックスの縦軸と横軸として表示されます。RGBボタンを選択した場合も同様に機能します。また、各オプションのスライダや、画面右側のボックスのスライダを動かすことでもそれぞれの値を変更することができます。数値を変更すると2つのボックスのスライダや選択地点も動き、ボックスのスライダや選択地点を動かすと画面下部の各数値も変更されず。

選択された色

選択された色は色スライダの下のボックスに表示されます。ボックスは斜め線で区切られており、左上半分には新しく選択した色（スライダや数値を使って現在作成している色）が、右下半分には現在選択されている色（既に使われている色で「色の編集」画面をキャンセルした場合に引き続き使われる色）が表示されます。選択された色の下部には新しく選択した色のHex値が表示され、Hex値を入力する形で色を選択することもできます。また、スポイトの絵が描かれたボタンを使うと、デスクトップ上のどこからでも色を選択することができます。

カラーパレットに色を設定

ラジオボタンの下に12個の長方形と、「パレットに設定」というボタンがあります。各長方形は特定の色を保存しておくためのカラーパレットで、「色の編集」画面で作成した色を後から再度使えるように保存しておくことができます。カラーパレットの色はExpress

Burnを閉じた後も色が保存されます。パレットに色を設定するには、まずパレットをクリックして選択します。次にパレットに設定する色を選択し、最後に「パレットに設定」ボタンをクリックします。設定後はパレットをクリックするだけで色を簡単に選択することができます。

各画面について - 音声CDを書き込む

書き込みプロセスを変更するため、以下の設定を変更することができます。初期設定と書かれているものはあらかじめ選択されたものです。Express Burnを使う上で何度も同じ設定を入力しなくて済むよう、設定事項は保存されます。**内部サポートを使って書き込む（初期設定）/Windowsメディアプレーヤーを使って書き込む**

通常のご使用には内部サポート（初期設定）をお使いください。Windows XPユーザーでWindows Media Playerを使ってのみCDやDVDを書き込めるといった問題が発生した際以外はWindows Media Playerはお使いにならないことをお勧めします。

書き込みドライブ

書き込みを行うドライブを選択します。データCD/DVDには「イメージファイル」を選択することができます。こうすることでISOファイル（例：image.ISO）をハードドライブに作成することができます。こうしたファイルは詳細メニューから「ISOイメージを書き込む」オプションを選ぶことで、後から書き込むことができます。この機能はExpress Burnプラス版でのみお使いいただけます。

書き込み速度

書き込みを行う速度を選びます。使用するドライブおよびメディアに適した速度のみが表示されます。

枚数

書き込みを行うCD/DVDの枚数を設定します（初期設定は1枚）。

オーバーバーンを使う

このオプションを選択すると、Express Burnは書き込みを行うファイルの合計がCDメディアのサイズを越えている場合でも、全てのファイルの書き込みを試みます。書き込みに失敗した場合はファイルの数を減らしてください。

書き込み済みの内容を消去する

この項目にチェックを入れると、書き込み可能ディスク(CD-RW、DVD-RW、DVD+RW、BD-RE)に書き込みを行う際、既書き込まれている内容が自動的に消去されます。ディスクの内容は書き込みドライブメニューオプションから「書き込み済みの内容を消去する」を選ぶことでも行えます。

初期設定のトラック間のポーズを使う

セッションアットワンスで書き込み、ポーズをカスタマイズする

トラック間のポーズ

音声CDの各トラック間には2秒のポーズが入るよう初期設定されています。初期設定を使うには、「初期設定のポーズを使う」を選択してください。ゼロ秒（ポーズ無し）を含むその他の長さのポーズに変更したい場合は、「セッションアットワンスで書き込み、ポーズをカスタマイズする」を選択してください。ここで「トラック間のポーズ」の値を希望の秒数に変更します。

旧式のドライバーはポーズのカスタマイズに対応していないものもありますので、その場合は「初期設定のトラック間のポーズを使う」を選択してください。対応していないドライブで書き込みを行った場合、パラメーターの設定に対するエラーが表示され、書き込みに失敗します。

ポーズの長さをカスタマイズすると、Express

Burnはセッションアットワンスで書き込みを行い、書き込み前に音声デコードされます。これにより最大で700メガバイトの多量な一時ファイルが作成されます。このオプションをお使いの際はこの点にご注意ください。

ディスクを完成させる

トラックアットワンスで書き込まれた音声ディスク（トラック間のポーズのカスタマイズをしなかった場合）は、ディスクを完成させずにおくことができます。完成しないでおくと後から他のトラックを挿入することができます。ディスクの編集が完了した時点で完成オプションを選択してください。完成されて無いディスクはCDプレーヤーによっては再生できない場合があります。

ディスクを起動可能にする（データディスクのみ）

起動可能ディスクを作成することができますが、著作権の関係でブートセクタのイメージはお客様のほうでご用意いただく必要があります。これは起動可能ディスクの冒頭にある16セクタまでのイメージのことで、ファイルは16個の2048バイトセクタのISOイメージであるはずで

各画面について - 使用するドライブを選択する

このページでは、使用する書き込みドライブを選択します。Express Burnはディスクが挿入されると自動的に書き込み用ドライブを選択しますので、通常この項目はオプションとなっています。

各画面について - ストリームを選択

音声ストリームを選択する **音声ストリーム:**

ファイルから音声ストリームを選択する

このメッセージを今後は表示しない

ポップアップ画面を非表示にして音声ストリームを選択

各画面について - ディスクメニュー作成機能

このタブを使いメニューに使用するテンプレートを選びます。テンプレートは右側の広いエリアでプレビューが可能です、またテキスト下部には様々な説明が入ります。「メニューを保存」をクリックするまではムービーのメニューには実際の変更は施されません。

新しいテンプレートを確認

このボタンをクリックすると、メニュー用の新しいテンプレートがあるかどうかを確認できます。この作業にはインターネット接続が必要です。

タイトル:

これはメニュー冒頭に表示されるキャプションです

副題:

これはメニュー冒頭に表示される2つ目のキャプションです

テキスト配置:

タイトルと副題は画面の左、中央、右のいずれかの場所に配置することができます。

メニューのプレビュー:

一覧形式のテンプレートが複数ページに及ぶ場合は「前へ」または「次へ」ボタンを使ってページを移動します。

背景画像をワイド画面に合わせて表示

メニューの背景画像の縦横比モードを選択します。

- なし: 背景画像は出力動画に関係なく元の縦横比のまま表示されます。
- 切り抜き:
背景画像は出力動画の縦横比に合わせて切り抜かれます。動画と背景画像の縦横比が異なる場合、背景画像の一部が切り取られた状態で表示されます。
- レターボックス:
出力動画の縦横比に合わせて背景画像を表示するために背景画像の背後に黒い背景が表示されます。
- ストレッチ:
背景画像は出力動画の縦横比に合わせて縦または横に拡大されます。

このテンプレート用のカスタムイメージを選択する...

このボタンを使いメニューに表示される背景イメージを変更することができます。対応しているイメージ形式はjpg/jpeg/jpe、pngおよびgifです。

各画面について - テンプレートを選択する

この画面ではダウンロードするテンプレートを選択することができます。ダウンロードするテンプレートにチェックを入れ、ダウンロードボタンをクリックします。「全て選択」ボタンをクリックすると全てのテンプレートを選択（または非選択に）することができます。

各画面について - 新しい書き込みディスクを選択する

このページでは書き込みを行うディスクのタイプを選択します。選択肢は以下のとおり：

- 音声CD：ステレオ、ウォークマンなどの機器で再生可能なスタンダードな音楽CDです。
- MP3 CD：.mp3の再生に対応しているデバイスで再生可能な音声ディスクです。
- MP3 DVD：MP3 CDのDVD版です。お使いのDVDプレーヤーがこうしたタイプのディスクに対応していることをご確認ください。
- データCD：プログラムやゲームに使われる通常データCD。このCDを使いコンピュータからディスクへデータのバックアップを行うことができます。
- データDVD：データCDと同じ種類のディスクですが、CDではなくDVDへ書き込みます。専門的な言い方では、ISO+Jolietファイルシステムが書き込まれるということになります。
- 動画DVD：スタンドアロンDVDプレーヤーで再生可能なDVDムービー。
- データブルーレイ：データDVDと同じ種類のディスクですが、DVDではなくブルーレイへ書き込みます。専門的な言い方では、ISO+Jolietファイルシステムが書き込まれるということになります。
- 動画ブルーレイ：スタンドアロンのブルーレイプレーヤーで再生可能な映像ディスクです。

選択した項目は後からツールバーを使って変更可能です。

音声CDを書き込む場合以外は書き込むディスクのラベルを入力することができます

。

各画面について - オプション

このダイアログではExpress Burnの全ての機能の設定を選択することができます。

一時データフォルダ

動画DVDの認証には多量の一時データを使用します。フル容量のDVDで最大5ギガバイトのデータを使用します。このオプションでは、Express Burnが一時データ用に使用するフォルダを選択することができます。初期設定ではお使いのコンピュータに標準装備された一時データフォルダが使われます。使用するフォルダを初期設定に戻すには、フォルダの詳細を削除（例：フォルダを空にする）することで自動的にリセットされます。

ディスクの自動読み込み/取出しを無効にする

このオプションは書き込み後にディスクが自動的に取り出されたり、書き込み前にディスクが自動的に読み込まれたりするのを防ぎます。書き込まれたばかりのディスクは一旦取り出した後再読み込みをするまで読み込まれないことが多いのでご注意ください。

Express Burnがトレイを取り出すと、主にWindows

95/98でドライブがクラッシュすることがあります。これはASPIレイヤーが引き起こす問題だと思われます。こうしたクラッシュを防ぐためにはこのオプションをお使いください。

音声の音量レベルを正規化する

このオプションは音声トラックに使用する正規化レベルの編集を行います。正規化を行うことで音量が大きすぎたり小さすぎたりする音声トラックの音量レベルが聴きやすいレベルに調整されます。

音量のレベルは0dbに対する音量レベルの割合（95%～105%）で設定します。

例えば100%は調整後の音声レベルが0デシベルに限りなく近くなるということです。

内部コーデックを最初に使う

このオプションはExpress

Burnに内部コーデックを使用させます。このオプションを選ばない場合、まず最初にDirectShowの使用を、次に内部エンジンの使用を試みます。こうすることでできるだけ多くの形式に対応することができます。サードパーティーのコーデックによってはExpress

Burnがクラッシュする可能性があります。このオプションをオンにすることでこうしたクラッシュを修復できる可能性があります。

ループ再生DVDを作成

メニューが無い場合はループ再生される動画を作成します。ループ再生DVDは最後の動画ファイルの再生が終わると最初の動画に戻って再生を続けるという作業を繰り返します。メニューがあるDVDはループ再生できません。

変更/作成日

データディスクに記録できる日付は1つです。このオプションでファイルを最後に更新した日、またはファイルを作成した日のいずれかを選びます。

各画面について - 動画チャプターを管理する

このダイアログを使ってDVDまたはブルーレイで再生される特定の動画に行った変更の管理をします。DVDのリモコン上にある>>|ボタンを使ってチャプター間の移動を行います。

各チャプターはHH:MM:SS.FF形式で時間が設定されており、これはそれぞれ時：分：秒.フレームという意味です。PALディスクの作成を選択した場合、毎秒25のフレームがあります。NTSCの場合、毎秒29.97フレームです。PAL/NTSCはメイン画面の「エンコーダ設定」ボタンで選択します。

チャプターの設定場所には制限があるため、Express Burnは選択した時間の後の一番近い有効地点に常にチャプターを設定します。この場所変更はこのダイアログ上で行われるのではなく、ディスク書き込み中に行われますのでご注意ください。

タイムラインをクリックすることでムービーをプレビューし、チャプターの位置を見つかることができます。挿入ボタンを押すか、または右クリックで「チャプターを挿入」を選ぶことでチャプターを挿入することができます。

再生ボタンを押すことで現在の動画を再生し、停止ボタンを押すことで停止します。その他のコントロールで動画の冒頭または最後に移動します。

挿入

ここで動画のプレビュー画面に現在表示されているポイントにチャプターを挿入します。実際に挿入されるのは指定した時間に一番近い有効地点であり、画面に表示されているフレームと全く同じ位置になるとは限らない旨ご注意ください。

変更

ここで現在選択されているチャプターポイント（画面右上のチャプター一覧で選択されているもの）を正確な時間値に変更することができます。有効地点の制限はこの場合でも適用されますのでご注意ください。

削除

ここで現在選択されているチャプターポイント（画面右上のチャプター一覧で選択されているもの）を削除することができます。

インポート

テキストファイルからチャプターポイントの一覧をインポートすることができます。

各ラインはHH:MM:SS.FF

(時、分、秒、フレーム)形式または現在の動画の冒頭から数えた合計フレーム数で表示されます。各チャプターは入力したファイルの各行に表示されます。

01:30:00:00

01:30:10:12

または

60000

125000

300000

両形式を混ぜて使うことも可能です。「:」が使われている文字列はHH:MM:SS.FF形式と認識され、それ以外はフレーム形式と認識されます。

エクスポート

ここでは全てのチャプターを現在選択されている形式でタイムライン用にエクスポートすることができます。

消去

このボタンを押すと全てのチャプターポイントが消去されます。

各画面について - チャプタを変更する

このダイアログで特定のチャプタのある一定の時間を編集することができます。時間は以下の2つの形式のいずれかで入力されます

H:MM:SS:FF

この形式では時間は現在の動画の冒頭の、時、分、秒、そしてフレームから始まります。メイン

エンコーダ設定でPAL形式を選んだ場合、フレーム数は1秒間に25となります。NTSCの場合、毎秒29.97フレームです。

フレーム

この形式では時間は現在の動画の冒頭から数えたフレーム数となります。

各画面について - 削除する

チャプタポイント

チャプタマーカを他のチャプタマーカの前後2秒以内の場所や動画の末尾に設定することはできません。

メモ：

チャプタを設定することで、DVDやブルーレイなどで特定の箇所の頭出しを行うことができます。各チャプタには時間ベースではなく、MPEG

Iフレームメーカーを基にした時間が設定されているため、少し早い場所からチャプタポイントの再生が始まります。

複数のチャプタを近すぎる場所に設定した場合、同じ位置にチャプタが設定される場合があります。

各画面について - ディスクボリュームのラベルを編集

ディスクボリュームのラベル

このディスクのボリュームラベルを指定します。以下の記号はお使いいただけません
:\ / : * ? " < > | . ; ^ , & + = [] % '

各画面について - CD-TEXT詳細

このダイアログではセッションアットワンスで音声CDを書き込む際にCD-TEXT情報を編集することができます。

注意事項：

- 「初期設定のトラック間のポーズ」オプションを使って音声CDを書き込む場合はCD-TEXTはお使いいただけません。
- ソフトウェアメディアプレーヤー（WindowsメディアプレーヤーやiTuneなど）やCDプレーヤーによってはCD-TEXTに対応していないものもあります。詳しくはソフトウェア会社または各機器のメーカーにお問い合わせください。WindowsメディアプレーヤーにはCD-TEXTへの対応を可能にするプラグインがあります。

アルバム

タイトルを編集するには以下を変更してください：「タイトル」テキストボックス
トラックの詳細を編集するには一覧から該当するエントリを選択してください。以下のいずれかが変更可能です：

- タイトル
- アーティスト

メモ：プレーヤーによってはトラックごとのアーティスト表示には対応しておらず、アルバムごとのアーティストの表示にのみ対応しているものがあります。この場合、アルバムのアーティスト名を入力していない場合はアーティスト名が空欄のまま表示されます。アルバムのアーティスト名が入力されている場合は、曲のアーティストではなくアルバムのアーティストがアーティスト名として表示されます。